

東京工業高等専門学校	開講年度	平成31年度(2019年度)	授業科目	基礎電気工学
科目基礎情報				
科目番号	0145	科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	情報工学科	対象学年	4	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	電気基礎(上) 高橋寛監修 コロナ社			
担当教員	伊藤 彰			

### 到達目標

- ・オームの法則、分圧、分流を理解し、直流回路の合成抵抗、電流、電圧を計算することができる
- ・キルヒ霍フの法則や重ねの理を理解し、直並列回路の電流を計算することができる
- ・電力、電力量を理解し、基本的な計算ができる
- ・交流の基礎を理解する

### ループリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限のレベルの目安(可)	未到達レベルの目安
評価項目1	オームの法則、分圧、分流を理解し、複雑な回路の合成抵抗、電圧、電流を計算できる	オームの法則、分圧、分流を理解し、簡単な回路の合成抵抗、電圧、電流を計算できる	簡単な回路の合成抵抗、電圧、電流の計算がある程度できる	簡単な回路の合成抵抗、電圧、電流を計算できない
評価項目2	キルヒ霍フの法則や重ねの理を自由に使いこなし、複雑な回路の電流を計算できる	キルヒ霍フの法則や重ねの理を理解し、直並列回路の電流を計算できる	キルヒ霍フの法則や重ねの理を用いた回路の電流の計算がある程度できる	キルヒ霍フの法則や重ねの理を用いて回路の電流を計算できない
評価項目3	電力、電力量を理解し、応用問題が解ける	電力、電力量を理解し、基本的な計算ができる	電力、電力量についての基本的な計算がある程度できる	電力、電力量についての基本的な計算ができない

### 学科の到達目標項目との関係

#### 教育方法等

概要	本科目は電気・電子工学における重要な基礎科目である。電気回路の基本的な考え方を学び、直流回路の計算、電力や電力量についての計算ができるようになることを目標とする。また、交流電圧・電流の基礎を学ぶ。
授業の進め方・方法	講義の他に課題提出を課し、学生が自主的に演習に取り組めるようにする。
注意点	単位の取得には予習・復習等の自学自習が必須である。

#### 授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	電圧・電流・電力	電位、電圧の概念を理解し、電流が発生する理由を説明できる。また、電力の概念を学ぶ。
		2週	オームの法則	オームの法則に従う計算を行うことができる。
		3週	合成抵抗	合成抵抗を算出できる。
		4週	キルヒ霍フの電流則	キルヒ霍フの電流則を説明できる。
		5週	キルヒ霍フの電圧則	キルヒ霍フの電圧則を説明できる。
		6週	演習	これまでの復習を行う。
		7週	中間試験	中間試験を実施する。
		8週	ホイートストンブリッジ	ブリッジ回路について理解する。
	2ndQ	9週	重ね合わせの定理	重ね合わせの定理を理解する。
		10週	鳳・テブナンの定理	鳳・テブナンの定理を理解する。
		11週	△・Y変換	△・Y変換を理解する。
		12週	交流の基礎	交流電圧、交流電流の概念を学ぶ。
		13週	交流の基礎	交流の最大値、実効値、平均値の概念を理解する。
		14週	演習	これまでの復習を実施する。
		15週	期末試験	期末試験を実施する。
		16週		

#### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学 電気・電子系分野	電気回路	電荷と電流、電圧を説明できる。	4	
			オームの法則を説明し、電流・電圧・抵抗の計算ができる。	4	
			キルヒ霍フの法則を用いて、直流回路の計算ができる。	4	
			合成抵抗や分圧・分流の考え方を用いて、直流回路の計算ができる。	4	
			ブリッジ回路を計算し、平衡条件を求められる。	4	
			電力量と電力を説明し、これらを計算できる。	4	
			重ねの理を用いて、回路の計算ができる。	4	
			網目電流法を用いて回路の計算ができる。	4	
			節点電位法を用いて回路の計算ができる。	4	
			テブナンの定理を回路の計算に用いることができる。	4	

#### 評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題	合計
--	----	----	------	----	---------	----	----

総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	90	0	0	0	0	0	90
専門的能力	10	0	0	0	0	0	10
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0